



若者自立プロセス資源化モデル事業でやっていること

2022/03/04
地域生活支援ネットワークサロン



まずは[紹介動画](#)をご覧ください



法人について（2000年障がい児の親の会が前身となって創設）

誰もが地域生活を生き生きと安心して送ることのできる地域づくりを目的に、生活当事者のリアルな困りごとからニーズを拾い、必要な社会資源を生み出してきました。事業は障がい福祉サービスを中心に制度事業と補助事業、自主事業を組み合わせ、多岐にわたります。

（現在行なっている具体的な事業内容）

- ・障がいのある方たちへの日中活動の機会提供（生活介護事業所、地域活動支援センター）
- ・必要なケアを含めた居住支援（グループホーム、自立援助ホーム、下宿など）
- ・働くことに配慮が必要な人たちの就労の場を創出（就労継続支援A型、B型ほか、支援付き就労）
- ・個別支援（居宅介護などヘルパーによる訪問、同行、外出、通院、送迎などの支援）
- ・発達支援や家族支援が必要な子どもやその家族へのサポート（地域活動支援センター親子の家、放課後等デイサービスなど）
- ・相談支援（相談支援事業所、何でも相談、子育てや生きづらさを抱える若者たちの相談）
- ・生きづらさを抱える社会的マイノリティへのサポート（学習支援、自殺防止事業（ネットの居場所ポータルサイト死にトリ）、若者支援、女性支援などなど）

この中で全国の若者を対象とした事業として、本事業を実施しています。

正式名称は「若者たちの自立プロセスを地域の社会資源として活用するための仕組みづくりのモデル事業」

目的はずばり『埋もれている個性豊かな若者たちの潜在能力を社会のためにフル活用すること』

道東の釧路を拠点としていろいろと生きづらい若者たちが何となくつながり、自分たちが感じる生きづらさをきっかけに、日々暮らし、働き、語り、学び、遊び...つまり生きていくプロセスをともにしています。そのプロセスを通じて、社会について考え、自分について考え、自分たちの持っている力を発見、活用し、ささやかでも社会の担い手となって、この生きづらさを生み出している社会を少しでも変えていけることを目指しています。

(公式サイトより)

利用者のひとりの話

くしろでの生活

- 2018年末 個人事業と会社員生活のバランスがとれなくなりうつ状態→自殺未遂
- 2019年1月 うつ状態から少し回復し、LINE相談経由で釧路の関連事業を教えるも
らう
- 6月 仕事がなくなったタイミングとコロナで閉塞感から、
移住支援を利用して東京から釧路に移住
- 7月～ メンタルが浮いたり沈んだりしながら就業したり、
ライフスキルセミナーに出席したり、いろんな若者と関わったり
- 11月～ 一人暮らししていると死にそうなので今住んでいる拠点に移る
- 2020年2月～ 基本的には、気が向いたら部屋や拠点の端っこでIT関係の業務をする
人生で一番おだやかに生活している

やってもらっていること

移住のときのお金の援助（移住支援）。引っ越しの手伝い（何度か）。

すみかの提供（居住支援）。おいしいごはんの提供（生活支援）。

相談に乗ってもらう。話を聞いてもらう。年金事務所についてきてもらう（同行支援）。

就労上の多大な配慮（就労支援。内容は多々あり、ひとことでは言い切れない...）。

金銭管理の手伝い（生活支援）。

交流会や勉強会に参加させてもらう（プログラム開発）。

.....その他、日々ありすぎてどれがなんだかわからないけれど、

たくさん配慮と調整をしてもらい、自分比いちばん穏やかな生活をできています。

くしろに来てからの変化

私：発達特性があり、できることとできないことに差がとても大きい

「お金を稼げなければ社会の中で生きていかせてもらえない」という強迫観念があったため、無理をしなければいけないと思い続けていた

→無理すればするほど働けなくなることを繰り返していた

くしろ：得意不得意を開示することが当たり前

一人ひとりができることを活かすために、様々なフォローと調整が常に行われている

→「タレントがたくさんいる」という表現（※プロデューサー不足が叫ばれている）

→「あ、自分はここにいていいんだ」と頭での理解だけでなく、実感できた

若者たちの利用状況

取り組み・利用状況（休眠預金事業取り組み以降で）

- 居住支援 累計 20世帯（単身17、母子世帯3世帯 短期、中期、移住まで）
- 移住支援 単身4、母子3世帯
- 生活支援 20数名（居住にはだいたいご飯がついてきます）
- 就労支援 若者たちはほぼ全員支援(配慮)付き就労 20数名
- 体験プログラム 最近、反響が次々と...（静岡、広島、京都、大阪）
- もろもろ相談（支援するされる以外のいろいろな人間関係の中での相談）
- セミナー受講や講座などスキルアップのための学びや研究の場
- 尊厳や心身の回復のための活動プログラム開発（交流・イベント・研修...例えば、人生を聞く会、映画鑑賞会、身体と生きづらさの関係を探る研究会、メンタル崩壊研究会...）
- コミュニティFMでのラジオ放送
- 支援者向けパンフレットの開発

前提に制度や助成金がある というよりは

各種制度・助成金を活用して、もともと地域や若者たちに必要なことをやっている